

認知症/軽度認知障害(dementia/mild cognitive impairment: MCI)

・認知症は認知機能の低下により日常生活に支障をきたした状態を指し、代表的な診断基準として、Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders-5(DSM-5)(表1)、National Institute for Aging-Alzheimer Association(NIA-AA)基準がある。

・認知症には様々な原因疾患や病態が含まれるが、主な原因疾患・病態としてアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症が挙げられる。

・認知症の治療は認知機能の改善と生活の質向上を目的として、薬物療法と非薬物療法を組み合わせで行う。また、認知症に対する薬物療法を開始するときには、その必要性を十分に検討する。

・アルツハイマー型認知症の認知機能改善のために使用可能な薬剤はコリンエステラーゼ阻害薬のドネペジル、ガランタミン、リバスチグミンの3種類とNMDA受容体拮抗薬メマンチンである(表2)。

・軽度認知障害(mild cognitive impairment :MCI)とは、認知機能の低下はあるが、基本的な日常生活は自立している状態を指す。軽度認知障害は症状の診断であり、その病理的背景は様々である。

・レカネマブ(レケンビ)はアミロイドPET、脳脊髄液(CSF)検査、又は同等の診断法によりアミロイドβ病理を示唆する所見が確認され、アルツハイマー病と診断された軽度認知障害及び軽度の認知症患者に使用される。

表1 DSM-5による認知症の診断基準

- A. 1つ以上の認知領域(複雑性注意、遂行機能、学習および記憶、言語、知覚-運動、社会的認知)において、以前の行為水準から有意な認知の低下があるという証拠が以下に基づいている:
- (1)本人、本人をよく知る情報提供者、または臨床家による、有意な認知機能の低下があったという概念、および
 - (2)標準化された神経心理学的検査によって、それがなければ他の定量化された臨床的評価によって記録された、実質的な認知行為の障害
- B. 毎日の活動において、認知欠損が自立を阻害する(すなわち、最低限、請求書を支払う、内服薬を管理するなどの、複雑な手動的日常生活動作に援助を必要とする)
- C. その認知欠損は、せん妄の状況でのみ起こるものではない
- D. その認知欠損は、他の精神疾患によってうまく説明されない(例:うつ病、統合失調症)

表2 アルツハイマー型認知症の認知機能改善のために使用可能な薬剤一覧

		効能・効果
コリンエステラーゼ阻害薬	ドネペジル	アルツハイマー型認知症及びレビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制
	ガランタミン	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制
	リバスチグミン	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制
NMDA受容体拮抗薬	メマンチン	中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制